四国八十八札所お遍路報告書

写真・文　後藤隆徳

年月日　　２０１２年月０４月０５日（木）～１１日（水）

回　数　　第４回・四国お遍路

参加者　　後藤隆徳、陶山節子、山口五月、渡辺典子、鈴木新平、鈴木綾子、高岡八千代、土屋弥生、陶山泰信（お遍路でなくランニング）＝８名＋１名

巡礼寺・順　　●３７番札所　岩本寺（いわもとじ）高知県高岡郡窪川町茂串３－１３

＊ 本尊＝不動明王、観世音菩薩、阿弥陀如来、薬師如来、地蔵菩薩

＊ メモ＝かつては福円満寺といい、行基菩薩の開基で、聖武天皇の勅を奉じ、仁井田明神のかたわらに建立された仁王経の七福即生の文にもとづいて、天の七星をかたどつてさらに六ヵ寺を建てて、仁井田七福寺とも称した。弘仁のころ、弘法大師が巡錫し、五社、五ヵ寺を増築し、本地仏のご本尊である不動明王、観世音菩薩、阿弥陀如来、薬師如来、地蔵菩薩の五体を安置し、自ら星供秘法を修し、藤井寺五徳智院と号された。

●３８番札所　金剛福寺（こんごうふくじ）高知県土佐清水市足摺岬２１４－１

＊ 本尊＝三面千手観世音菩薩

＊ メモ＝岩本寺から足摺岬へはへんろ道の中でもっとも長く、約百十㌔、歩いて三泊四日ほどかかる。土佐の京都といわれる中村より四万十川を渡り、伊豆田峠を越え下ノ加江より以布利へ、ここから土佐清水を経て海沿いに窪津、稲荷崎、足摺岬へ。岬の突端に近づくと急激に海へ迫る。アコウや天然のツバキ林を抜ければ、十二万平方㍍の広大な境内に本堂をはじめ諸堂が点在する。岬の突端に立つと、紺青の海原が無限にひろがる。ここには弘法大師の七不思議の伝説がいまなお生きつづけている。

使用バス　　清水町・ドリーム観光（ドライバー・Ｔ）

経費　　寺経費はない

第１日目

０４月０５日（木）晴　　歩行距離＝６．８Ｋｍ

清水町３：００―ヨーカ堂前３：１０―下土狩駅３：１５－なめり駅３：２０－竹沢種苗―東名―浜名湖ＳＡ―新名神―淡路ＳＡ１０：２５―前回最終地発１３：５５－浦ノ内須ノ浦地先１６：２５―民宿「みっちゃん」１６：４５（泊）

第４回四国お遍路。天気は良かった。前回最終地の青龍寺地先から出発。さっそく向う

ちょっと伊豆みたい

から、逆打ちの単独行が来た。今年は「うるう年」で、逆打ちが多いそうだ。逆打ちは、三倍の御利益があると言われる。西伊豆のような、断崖の海岸線を辿れば、道はやがて下り坂になり、浦ノ内湾に向かって行く。今日はここでお終い。少し戻り、池ノ浦の今日の宿、民宿「みっちゃん」に向かった。

「みっちゃん」は、極めて小さな民宿だったが、何と言うか、温かい宿だった。女主人は「奥野三津子」さん。ネットでは、その昔、漁師のご主人を海難で亡くし、乳飲み子を抱え、お義母さんと民宿を始めたとあった。また。脳梗塞で頭の手術を４～５回やったが、現在は元気で明るい肝っ玉母さんだった。

壁には、元朝日新聞で「天声人語」も書いたという、辰濃和男さんの「池の浦に　みっちゃん民宿あり　これぞ宝」の色紙が飾ってあった。

奥野三津子さん

民宿「みっちゃん」

第２日目

４月６日（金）晴　　歩行距離＝約３３．４Ｋｍ

起床５：３０ーバス６：４０ー浦ノ内須ノ浦地先発７：００ー道の駅「かわうその里」１０：１０ー　レストラン「琵琶湖」１１：３０～１２：１５ー大坂遍路道―七子峠１６：１０ー「福屋旅館」（泊）１７：００

みっちゃんに見送られてバスで出発。今日もいい天気だった。昨日の最終地、浦ノ内湾から左折して西に向かう。須崎の中心街を通過し七子峠に上る。途中「道の駅・かわうその里」があり、ここで新庄川を渡った。

この新庄川は、１９７９年、「ニッポンカワウソ」が最後に目撃された川という。しかし、その後、今年８月まで、再目撃情報はなく、遂に「絶滅」と発表された。３０余年前は、まだ豊かな自然があったのだろうか。

この先の街道は、「土佐文旦」の販売所が沢山あった。安和（あわ）駅前で午前は終了し、バスで、土佐なのに何故か「琵琶湖」という名のドライブインで昼食にした。ここのお母さんは、サービス精神タップリだった。店の「デコポン」は安かった。

土佐文旦

デコポンと「琵琶湖」のお母さん

本格派のＳさん

午後は、バスで再び安和に戻った。ここでＳさんが「足袋」に「草鞋」の「本格的スタイル」に変貌。皆さんの喝采を浴びた。（笑）道は、ここから焼山遍路道があったが、新道を歩き、土佐久礼に入る。

ここでは、民家にイノシシが吊るしてあったり、多くの家の軒下に、まだ正月飾りが残っていたり、西岡酒造で地酒を試飲・購入したりした。

ここでも遍路道は、山を行く「そえみみず遍路道」と谷を行く「大坂遍路道」に分かれていた。何人かの地元の方に聞いたが、意見は分かれ結論は出なかった。が、結局私の感で後者を選択。しかし、これは正解だった。

「大坂遍路道」は、青木坂の五輪塔群・青木城・埋蔵金伝説などがある、歴史的な場所だった。特に、今まさに満開の「桜並木」が延々と続き、そこを悠々と進み行く、我が巡礼会の面々は、素晴らしく輝いていた。思わずカメラを構える方もいたほどだ。

大坂遍路道

谷道は牧歌的なイイ感じで続いていた。とある農家を覗いたら、ご夫婦で「ショウガ」の植え付け準備をしていた。それを見るや、目ざとい S、T さんが、さっそく交渉に入り、立派なショウガを非常に安価で譲って貰った。私も購入し、現在畑に埋まっていますが、今年の干ばつで、畑に水分が少なく、やや元気がありません。

そんなこんなで、最後の急坂を踏ん張り、七子峠に飛び出た。今日はここで終了。バスで久礼に戻り、「福屋旅館」に入った。しかし、ここの旅館は最初から問題があった。

旅館に入り夕食まで時間があったので、午後通過時に目をつけていた魚屋に行って「カツオ刺身」「土佐文旦」を買って来た。

カツオは、漫画で有名な西岡酒造の清酒「一本釣り」で頂きましたが、サイコーの味。文旦は、大きなビニール袋に１５ヶ位入って１０００－だった。

カツオ刺身と清酒「土佐一本釣り」

「福屋旅館」のトラブルは、七子峠をバスで下る時から既に伏線があった。バスから電話で「もうじき到着です」「風呂をお願い致します」と伝えたところ、若い女主人（？）が、キツイ言い方で「風呂は順番だから、着いてもすぐ入れない」と返事。「ムム」と思ったが、でも、まあ、それは仕方がない。「そうですか・・・」で収めた。

次は、バスが旅館に着いた時、入口に軽自動車が２台置いてあって、バスが思うようにならない。若い女主人に、退かしてくれるよう頼んだが、「向こうに止めてくれ」という。これにはＴドライバーも憤然。全員、荷物をガラガラ引っ張って旅館に入った。

極めつけは、夕食の時間を電話で知らせて来た時、まだ女性が入浴で全部揃っていなかったので、私が「全員揃うまであと２～３分待って」と頼んだら、例の女性が、理由は不明だが「ドンドン早く摂ってくれ」と言い放った。

私はこれで完全に切れてしまった。酒を飲んでいたし、疲れていたかも知れない。「その言い草は何だ。たかが２～３分待てね～のか～！！」「その態度は何だ」「×＋＠＊○￥＝～！！」。

まあ、その後は後味の悪いこと。結局、女性は食事会場に姿を見せなかった。翌朝は見送りも来なかった。ちょっとした齟齬（そご）が生んだ誤解かも。私自身、反省しきりだった。まだ、「ごっちゃん、修行が足らん」とＳさんに叱られそうです。

それとも「土佐の女」は、皆さんあんなでしょうか。（例の「はちきん」？？）皮肉を言わせて貰えば、宿名を「鬼屋旅館」にしたら如何ですか。（笑）

「はちきん」とは、「男勝りの女性」を指す土佐弁。ならびに高知県女性の県民性を表した言葉である。話し方や行動などがはっきりしており快活、気のいい性格で負けん気が強いが、一本調子でおだてに弱いといわれる。後ろを振り返ることなく前進し続けるといった頑固さや行動力あふれる点で、土佐の男性と共通する。

「鬼屋旅館」？？！！

第３日目

４月７日（土）晴　　歩行距離＝３２．１Ｋｍ

起床５：３０ーバス７：００ー七子峠７：３０ー岩本寺まで４Ｋｍ地点９：５５ー岩本寺１１：０５～４０ー食堂「水車亭」１１：４５～１３：００ー佐賀温泉１５：４０ーシダ坂地先１６：４０ー民宿「白浜」１６：５５（泊）

後味の悪い宿を出て、七子峠に戻った。今日もいい天気。皆も絶好調だ。峠から下り道が続く。すぐ川沿いの裏遍路道になった。その昔、弘法大師が通りすがら、薬草を採取したと言われる。大きな看板があり、「四万十源流合衆国」とあった。

この先の民家では、「ウリ坊」を飼っていた。大きくなったら山に返すと言っていた。また、この辺の畑は「石」が多くて驚いた。田んぼの中に、コブシ大の石がゴロゴロしていた。耕運機は大丈夫だろうか。

ショウガ植え付けの農家の方がいたので聞いたら、石と正月飾りは、単に面倒臭がりとの話だったが・・・。

ショウガ畑

へんろみち看板

みなくち・天ぷら店

この先のコンビニで、二人の自転車遍路に会った。一人は日本人で相方はドイツ人で有名なオーケストラのバイオリニストだと言う。滞在期間が限られるので自転車で回っているらしい。健闘を誓って皆で記念撮影をした。

近くに岩本寺まで４Ｋｍの看板があった。兎に角、今回のお遍路は、５日間約１５０Ｋｍで、お寺が二つの寂しい行程。これで少し元気が出た。

寺町に入ると俄然賑やかになった。お腹が減るころだった。丁度、「みなくち・天プラ店」があって美味しそうな、コロッケ・エビ天・イモ天・唐揚げなど売っていた。全員、フラフラと買い求め、境内入口の喫茶店の外ベンチで、モグモグといただいてしまいました。美味しかったです。

岩本寺に入る。本堂の天井は、仕切り枡に鳥・猫・人物・花・風景が描かれていた。障子の桟上には、額に入った絵があった。全体的に大きな寺ではなかった。

岩本寺

寺を辞し、近くの食堂「水車亭」で昼食にした。おこわご飯・鳥肉丼などだった。この辺りは、芋の産地だった。店には、普通の「けんぴ」と「塩けんぴ」が売っていた。

午後は、町外れから次第に坂道になり片坂峠に向かう。峠下は、標高差１６０ｍと急激に下っていた。道路は大変なので、ショート・カットを下ったら楽だった。ここから、だらだら南下し海に向かって行く。

拳ノ川峠に休憩所があった。若い単独の男性お遍路がいた。富山県砺波市出身のＮ尾Ａ志君だった。年齢は４０歳の好青年。聞けば、お遍路は二回目で、会社を辞めて来たと言う。まあ、いろいろ事情があるのでしょう。足摺岬の金剛福寺では、「至急、家に連絡するよう」の張り紙があったりして・・・。

Ｎ尾君

この先に佐賀温泉があった。素敵な温泉だった。マラソンのＳさんは、入ったらしい？？時間が遅くなった。今日は「シダ坂」付近で終了した。

宿は鹿島ヶ浦先の民宿「白浜」。窓を開けるとすぐ海が広がっていた。この宿は、全く問題は無かった。同じ宿でもこうも違うものか・・・。夕食は、目の前の海を見ながら、全員が半月状に座って頂く。Ｓちゃんと、またまた大いにやってしまった。

民宿「白浜」

第４日目

４月８日（日）晴　　歩行距離＝２７．６Ｋｍ

起床５：３０ー宿発バス６：５０ーシダ坂発７：１０ー民宿「白浜」９：２５—昼食１１：３０～１２：３０ー入野自然公園１３：１５ー四万十大橋１５：５０—民宿「鈴」１６：２０（泊）

早朝、海からの日の出が感動的だった。今日もいい天気。今回は天候に恵まれている。有り難いことです。ただお寺はない、ひたすら歩きます。前回、室戸岬まで随分長く感じた。今回も足摺岬まで長いが、案外、苦痛は感じなかった。

シダ坂から出発。すぐ裏街道があった。ここから海に向かい、宿泊した「白浜」前を通過し、井の岬トンネルを潜り黒潮町に入る。黒潮町は、「鯨の見える町」を売りにしている町だった。昼食はホテル「海坊主」で摂った。刺身定食が良かった。

午後は、入野自然公園に入って行く。この海岸は、砂浜と松林が延々と続く、凄い海岸だった。

入野公園

早い鯉のぼり

途中、モーターパラグライダーのオジさんに会ったり、砂丘に青々とネギみたいのが作ってあったので、よく見たら「ラッキョ」だったり、女性？？単独お遍路さんが、小高い休憩所で印象的に休んでいたり、桜をバックに逆打ちの単独女性？？とすれ違ったり、中沢橋付近で「亀」が沢山泳いでいたり、いろいろと見聞を広げた。

お遍路さん二人

竹島小学校前を通過し、待望の四万十大橋に到着。今日はここまで。バスから初めて見る四万十川は、正に大河だった。

第５日目

４月９日（月）晴　　歩行距離＝２９．５Ｋｍ

起床５：３０ー宿発バス６：４０ー四万十大橋発６：５０ー昼食（コンビニ弁当）

１１：３０～１２：１５ー大岐の浜１３：３０ー民宿「高原」１６：５０（泊）

今日も歩くのみ。寺はない。そして、天気は良かった。「鈴」の女将に見送られ宿を出る。ここの宿は、風呂も食事も良かった。

四万十大橋を渡る。川だか海だか分からないくらい大きい。渡り切り南下する。八束小学校前では、美人の校長が生徒を出迎えていた。驚くことにここの小学生は、低学年も自転車通学だった。静岡では考えられない光景で、逞しい子供たちだった。

自転車通学と校長

長い新伊豆田トンネルを抜けると、３９番札所・延光寺への道があった。３８番札所・金剛福寺から３９番まで山ルートと海岸ルートは長いので、ここまで「戻り巡礼」のルートだった。従って、この先で金剛福寺から一旦、戻って来るお遍路さんを多く見かけた。

ただ、私は同じ道を戻るのは嫌なので、標高約６４６ｍの峠越えのルートを選択した。標高約７３０ｍの伊豆・戸田峠を考えれば、大したことはない。

足摺岬まで、あと２５Ｋｍの道標があった。昼食の時間だったが、この辺りは食堂が全くない。今回はコンビニ弁当をバス車内で頂いた。更に南下を続ける。美しい海岸線が続く。特に大岐浜は１６００Ｋｍの及ぶ長大な浜だった。

大岐浜

以布利で海岸に降りて歩いた。赤い金剛杖を持った逆打ちの方が来た。赤い杖は、身長以上で太く・長く・重いものだ。杖の頭には、金具の「金剛杵」（こんごうしょ）も付いていた。

・・・金剛杵＝空海がもたらした、「密教法具」。煩悩を打ち破る武器で、仏心・菩提心を表現する仏具とされている。実際の古代インドの武器をかたちどったもの。

短剣をつなぎ合わせたような、爪一つのものを「独鈷杵」。爪三本を「三鈷杵」と呼ぶ。金剛杵の一方に鈴が付いたものが、「金剛鈴」で、これも、怠けることなく、仏道に精進せよと警告する法具である・・・

「個人」２０１１．１０月号

赤杖の先達

この方は大坂（？）の方で、すでに四国お遍路は、何回か来ているとのこと。赤い杖は、公認の先達の証で、黒色杖が最高位で、赤はその次と言っていた。私たちは、普通の木杖だから、普通のお遍路さんです。(笑)

時間は１６時を回った。今日の宿は、足摺岬・民宿「高原」。お母さんが一人で仕切っている宿。気持ち良いお母さんが頑張っていました。？？？の刺身が美味しかったです。

御母さん

？？？刺身

第６日目

４月１０日（火）晴　　歩行距離＝約３１Ｋｍ

起床５：３０ー宿発バス６：３０ー津呂地先発７：００ー足摺岬８：５０ー３８番札所・金剛福寺９：１０～１０：００ー昼食「足摺荘」１１：４０～１２：２０ー中浜万次郎生家１４：２０ー足摺黒潮市場１５：３０ー足摺岬・黒潮ホテル１７：００（泊）

お遍路歩きは最終日。今日も天気は良かった。昨日最終地・津呂から出発。この先は、待望の「足摺岬」だった。

１番札所・霊山寺から、一体何キロあったのだろうか。資料によれば、約５５６Ｋｍ。そこを４回・２０日で歩いたから、１日平均＝２７．８Ｋｍ！！正に「あしずり・ずり・ずり岬」なのだ。

岬の入口の公園には、中浜万次郎の大きな銅像が、東の海を見つめていた。岬の先端に行く。白い灯台の下に太平洋の荒波が砕けていた。皆で感動の記念撮影。

足摺岬

３８番札所・金剛福寺は立派な寺だった。本堂・庭とも素晴らしい佇まいだった。この辺境の地に、こんな立派な寺が存在することが信じられなかった。皆さんの信仰心がうかがい知れた。

金剛福寺

１時間ほどゆっくりした。受付に先日会った砺波市のＮ尾君に連絡張り紙があったが、彼は見ることなく、通過してしまったようだ。ちょっと気になったが、その後も会えなかった。

寺を辞し、近くの「白山洞門」を眺めて足湯に入る。気持ちが良かった。その後、松尾のカツ節工場で、地元のおばさん達と交流したり、中浜万次郎生家に寄ったりした。カツ節工場では、出来たてのカツ節を削って頂いたが、これは美味しかった。おばさん達は、車座になって、小刀でカツオを「磨いて」いる。

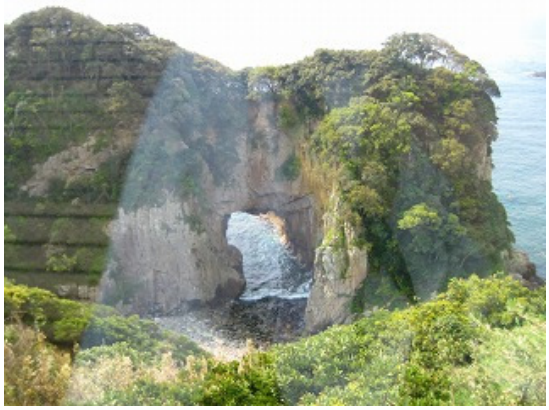
カツ節工場の近くには、カツオを燻す木材が沢山積んであった。また、万次郎生家の近くには、本家があり、万次郎の長兄の長男のお嫁さんが、庭掃除をしていて、少し話もした。昼食は、やっぱり近くに食堂がないので、足摺岬に戻って頂いた。ここで見た、キリンラガービールのコピー「たっすいがは、いかん」は、土佐弁で「薄いのは、いかん」の意味だそうです。

午後は、今回最後の歩きだった。またまた伊豆のような断崖絶壁の道を辿り、土佐清水に下る。最後の力を振り絞り、足摺黒潮市場に到着し終了した。今日は最終日なので、宿は少し奮発し、足摺岬・黒潮ホテル泊。まあまあの宿でした。

カツ節工場

カツ節

白山洞門



足湯

万次郎生家

黒潮ホテル

第７日目

１１月７日（月）大雨

起床５：３０ー宿発バス７：１５ー高知自動車道ー徳島自動車道―淡路島―名古屋ー静岡ー長泉町１８：３０ころ

最終日は雨だった。今回は天気に恵まれた。朝、車窓からずぶ濡れのお遍路さんを何人か見た。

今回は待望の足摺岬まで歩いた。室戸岬・足摺岬は、お遍路の大きな鬼門で、前半の山は越えた。これで５分の２終了だろうか。次回は愛媛に入る。これで先が見えた。更に精進・努力・奮闘で頑張りましょう。ご苦労様でした。合掌。

以上